

7章 構造機能論的アプローチ：現代家族のネオ機能分析の試み

- ・ 社会構造一諸制度が構造維持に果たす機能分析：
- ・ T.Parsons:A(adaptation)経済,G(goal attainment)政治,I(integration)コミュニケーション,L(latent pattern maintenance)文化 4つの機能要件
- ・ 批判：1)生物有機体モデルは社会モデルたりうるか？
・ 2)社会変動の説明は？誰が？どのように？
・ 3)機能的でないものは病理・逸脱か？ 離婚等
- ・ ネオ機能分析：機能要件充足が困難になると変動？？
- ・ その他、家族の機能、変動への視点が述べられるが、意味不明

8章 システム論的アプローチ

- 家族システム論:精神分析→家族療法(精神疾患の要因としての家族、快復促進者としての家族)
- 家族システム円環モデル:family cohesionきずな、family adaptation かじとり、communicationが家族機能度を決定:これら諸要素のバランスがとれた中庸な家族→個人の心理的安定、成長、市民社会的志向性を涵養する
- 分析例:1)家族の絆←父・母・子の回答と相関あり,
2)阪神大震災後の家族の絆・かじとり度合いとストレス
3)市民社会と家族システム?(質問項目の重複効果?)
- 問題点1)傷ついた家族でも人はたくましく育つ、何不足ない家族でも子供がぐれることはある。なぜ?
- 2)家族の大きさは認める。しかし、それ以外の社会の要素(消費社会化、情報化)、或いは社会意識の変化(価値の溶解)、グローバリゼーションに伴う異文化の移入、葛藤が個人に与える影響も大きい